4鳥[国工業高等		開講年度	令和06年度 (2	 (024年度)		国語 I	
	·礎情報		1 2 2 2 1 2			,		
科目番号		0012			科目区分	一般 / 必	·····································	
<u> </u>	_	講義			単位の種別と単位			
開設学科			 科(機械コース)		対象学年	1	3	
開設期		通年	11 (1/21/22) (7	週時間数	前期:2 征	糸期・1		
	*/	『現代の		 、『現代の国語 :	果題ノート』(筑厚		×/v]. 1	
教科書/		『結ひの	<u>古典』(あるむ)、</u>	新国語便覧(大修	館書店 A5判)、	国語辞典ほか		
担当教員		二 森木 三穂	,					
到達目				·				
。 2. 古文 3. 他者 涵養に努	て・漢文を読 番の口頭によ	み、自国の異 るものを含む	なる時代の文化や星	異なる国の文化の一頭 現的に評価するとと	端を理解し、自己の	の考えを深めたり	D意図を的確に汲み取ることができる O広げたりできる。 多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の	
,,,,,			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レヘ	 ジルの目安	未到達レベルの目安	
				<u></u>				
評価項目1			・要約し、意見 ² る。また、文学(の意図を的確に)	を表すことができ 作品を読み、作者 汲み取ることがで して読書習慣を身	│・要約し、意見を │る。また、文学作	を読み、論旨を理解 見を表すことができ 学作品を読み、作者 こ汲み取ることがで に込み取ることがで との必要性を理解でき		
評価項目2			時代の文化や異端を理解し、自己 端を理解し、自己 り広げたりできる。 、身近な問題に	み、自国の異なるはる国の文化の一次では、 なる国の文化の一次では、 さいできなでである。 さいできないである。 でいまする。 でいまる。	古文・漢文を読み時代の文化や異な端を理解し、自己 り広げたりできる	る国の文化の一 この考えを深めた	_ 白乂・渼乂を読め、日国の共はる - 時代の文化や異かる国の文化の―	
評価項目3			について、客観 もに建設的に助 多角的な理解力、 力の涵養に努める	るものを含む表現 的に評価するとと 言できる。また、 柔軟な発想・思考 るとともに、自己 資することができ	他者の口頭による について、客観的 もに建設的に助言 解力、柔軟な発想 努めることができ	可に評価するとと し、多角的な理 は・思考力の涵養!	他者の口頭によるものを含む表現	
 学科の	到達目標」	 項目との関						
			·· コミュニケーション	の基礎能力を身につ	 ⊃ける。			
教育方								
本授業の目標は、論理的思考力を養うとともに、文化を理解し多様な価値観に触れることで自己の考えを深めることで、他者とのコミュニケーションの基本となる日本語能力の、総合的な向上を図ることである。具体的な副目である。1 「情報を正確に受け取る力」(〈聞く能力〉および〈読む能力〉)育成。2 「情報を正確に行る力」(〈書く能力〉および〈話す能力〉)育成。3 コミュニケーションの基本となる協調性の涵養。課題提出ストは目標達成のため、適宜行う予定である。国語辞典は各自用意すること。								
授業の進	生め方・方法	学年末に 授業内容	講義形式で進める。 はパワーポイントを によって配布プリン	注用いた発表を行う。 /トを活用する。	,		වර .	
注意点 ノートは必			らかじめ、予習(本文を一読するなど)をしてから臨むこと。 必ずとること。なお、国語辞典(紙媒体・中学校で使用したものも可)は各自用意すること。 実施しない。					
事前・	事後学習、	オフィス	アワー					
事前・事	3後学習はそ	のつど指示す	る。					
			、事前に連絡しアオ	<u> </u>	を推奨する。			
授業の	属性・履信	修上の区分						
☑ アク	ティブラーニ	ニング	☑ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計	画							
		週	授業内容			週ごとの到達目		
		1週	ガイダンス			国語 I を受講す	る目的・目標を説明することができる	
前期			話す 聞く 「境目」(境界論)			れた考えに対じ	を正しく使える。論理的な文章に評さ て、その論拠の妥当性の判断を踏まえ 述べることができる。	
		3週	話す 聞く 「サイエンスの視点	点、アートの視点」		堂田漢字の音訓	を正しく使える。論理的な文章に評さて、その論拠の妥当性の判断を踏まえ述べることができる。	
	1stQ	4週	書く 「ことばがつくる女	てと男」(ジェンダ	_論)	常用漢字の音訓を正しく使える。論理的な文章に評 1た考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏ま 「自分の意見を述べることができる。		
		5週	読む 「システムと変異」	(生命論)		常用漢字の音訓を正しく使える。論理的な文章に れた考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏 て自分の意見を述べることができる。		
		6週	話す 聞く 「誰かの靴を履いて	こみること」(社会	論)	常用漢字の音訓 れた考えに対し て自分の意見を	を正しく使える。論理的な文章に評さ て、その論拠の妥当性の判断を踏まえ 述べることができる。	

		7週	ファ:	シリテーショ ループワーク	ンスキル)	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団しての思いや考えをまとめることができる。新たな想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを理するための手法を実践できる。グループワーク、ークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。				
		8週	前期	 中間試験		これまでの学習の定着度を確	 確認する			
		9週	答案			前期中間試験までの学習内容日本語の歴史と変遷を学ぶる	学の定着度を研 ことができる。	筆認する。		
		10週	くず(第			文字の変遷を学び、AIを用い 昔話として親しみのある「消 差異や特徴を理解する。	ハてくずし字を	を読む。 言文で読み、		
		11週	(第	 2章)韻文の と和歌、『和	世界 泉式部日記』	和歌の歴史と社会における 散文への影響を理解する。				
		12週	(第	2章)『十訓 6章)『化け	抄』	一般によく知られる和歌やお ロディ作品と比較して読み、 その受容を理解する。	女事・伝説をも	うとにしたパ		
	2ndQ	13週	『伊	勢物語』初冠	散文への展開 ・ ・ 物語」第1段	歌物語を読み、和歌の果たしまた、パロディ作品と比較しする。				
		14週	(第	3 章)『伊勢	物語』芥河、つひにゆく道	歌物語を読み、和歌の果たし	」た役割を理 角	 弾する。		
		15週		4章)物語か 氏物語』光源		国文学の最高峰『源氏物語』 その関連作品と比較・読解な する。		発展を理解		
		16週	(第	4章)『源氏	物語』車争ひ、『葵上』(謡曲)	国文学の最高峰『源氏物語』 その関連作品と比較・読解な する。	を読み、 ^と 通し、作品 <i>0</i>	発展を理解		
		1週	書く「身	体、この遠き	もの」(身体論)	常用漢字の音訓を正しく使えれた考えに対して、その論 れた考えに対して、その論 て自分の意見を述べることが	える。論理的な 心の妥当性の半 ができる。	(文章に評さ 川断を踏まえ		
		2週	読む 「魔	術化する科学	技術」(科学技術論)	常用漢字の音訓を正しく使えれた考えに対して、その論 れた考えに対して、その論 で自分の意見を述べることが	処の妥当性の半			
		3週	読む「羅	生門」(小説	3)	文学的な文章に描かれた人物 して読み取り、自分の意見を 門の分野に関する用語を思	を述べることた	ができる。専		
	240	4週	読む「羅	生門」(小説	3)	文学的な文章に描かれた人物 して読み取り、自分の意見を 門の分野に関する用語を思	を述べることも	ができる。専		
	3rdQ	5週		5 章)歴史を 家物語』祇園	語る 精舎、知章最期	歴史を語る作品群を読み、 史実と物語作品が描く歴史の	D世界を理解す	tる。		
		6週	(第 酒吞	5章) 童子(渋川版	i)	歴史を語る作品群を読み、 史実と物語作品が描く歴史の	D世界を理解す	「る。		
後期		7週	発表			日本の古典文学作品の紹介を				
			701			作品から発想したビジュアル資料 (二次創作) も行い 、作品を深く理解する。				
		8週	発表			日本の古典文学作品の紹介をプレゼンテーションする。 作品から発想したビジュアル資料(二次創作)も行い 、作品を深く理解する。				
		9週								
		10週								
		11週								
	4thQ	12週								
	1	13週								
		14週								
		15週 16週								
	<u>ー</u> コマサロ	_	し 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	 内容と到達		L				
モナル. 分類	ユアハソ		<u>ムの子首</u>)野	学習内容	重日 伝 ■ 学習内容の到達目標		到達レベル	授業週		
ル規		17.) ±]'	于自门台	子首内谷の到達日保 論理的な文章(論説や評論)の株					
					・要点をまとめることができる。					
i e	1	l l		1	=ATB45+1++++ (=A=+1+=T(=A) /-=		1	1		

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文社会科 学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要旨・要点をまとめることができる。		前3,後13
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	前11
				社会生活で使われる語彙(故事成語・慣用句等を含む)を増やし、思考・表現に活用できる。	3	前2
				専門の分野に関する用語を論理的思考・表現に活用できる。	3	
				文学作品(小説・随筆・詩歌・古典等)を文脈に即して鑑賞し、 そこに描かれたものの見方や登場人物の心情を説明できる。	3	前11,後8
				言語的・文化的教養(語彙・知識等)に広く関心を持ち、そこで得られた知識や考え方を効果的な表現に活用できる。	3	後8
				言語作品の読解を通して、人間や社会の多様な在り方についての考えを深め、自己を客観的に捉えたり自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字を中心に、日本語を正しく読み、表記できる。	3	

			実用的な文章(手約 語句を用いて作成で	氏・メール等)を、 ごきる。	相手や目的に応じ	た体裁や	3	
			報告・論文の目的に 情報を収集し、それ	こ応じて、印刷物、 1を整理、分析でき	インターネットか る。	ら適切な	3	
			整理した情報を基に 成や展開、表現方法	こして、主張が効界 法を工夫し、報告・	臭的に伝わるように 論文を作成できる	論理の構 。	3	
	作成した報告・論文の内容及び自分の思考や考察を資料(図解・ 動画等)にまとめ、的確に口頭発表できる。						3	
	課題や条件に応じ、根							
	相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。					3		
			新たな発想や他者の するための手法をす		、自分の思いや考	えを整理	3	
評価割合								
	試験(前期中間 ・後期中間)	レポート(前期期末)	発表(学年末)				合	計
総合評価割合	合評価割合 40		40	0	0	0	10	00
基礎的能力	40	20	0	0	0	0	60)
専門的能力 0		0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	40	0	0	0	40)